すばらしきみえ

FOR NICE COMMUNICATION

2021.4
221号

■特集／ダム湖のある風景

●いま、グループネット／四日市市楠歴史民俗資料館保存運営委員会　●みえを歩こう／津市 白山町川口周辺

特集

ダム湖のある風景

取材・文…中村 真由美　中村 元美　堀口 裕世
撮影……梅川 紀彦　尾之内 孝昭
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

「君ヶ野ダム」全景（津市美杉町）※

周りの風景の美しさと構造物が持つ迫力が、ダム湖の魅力です。

ダムは自然に囲まれた山奥がおもな建設場所。岩盤や地質の調査、地域との交渉も必要で、着工に至るまでにも時間が費やされます。そんなことを思い描くだけで、ロマンを感じます。古くは田畑に水を引くためにダムが造られましたが、現在ではさまざまな働きを持つ多目的ダムが多く、洪水調節や水の確保、水力発電、そして環境保護といった役割があります。日本のダムは建設中も含めるとおよそ2700*基。その数からも、人々の暮らしにいかに大切な役割を果たしているかがわかります。

三重県内のダムの多くは堤防が通行可能で、雄大な景色を眺めて散策することができます。公園を利用したり、見学会は学習の場にもなり、地域に親しまれ、構造データやこだわりを記載したダムカードも配布されています。アクセスが便利なところばかりではありませんが、絶景と感動が待っています。そんな魅力いっぱいのダムを訪れてみてください。

＊一般財団法人日本ダム協会

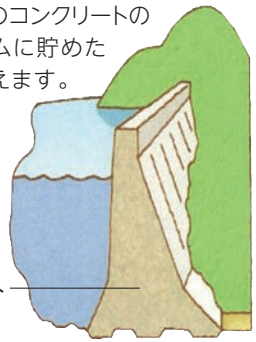
●各施設に関しては、休館日・開館時間・料金・受け入れ方法・人数などに違いがあり、状況に応じて休館・閉館している場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・撮影は12月中旬～1月上旬に行いました

おもなダムの種類

重力式コンクリートダム

ダム自体のコンクリートの重さでダムに貯めた水をささえます。日本で最も多く見られるタイプです。



アーチ式コンクリートダム

両岸で水圧をささえるアーチ型のコンクリートダムです。重力式より少量のコンクリートで造れますが、両岸が固い岩でできている所でないと造れません。

ロックフィルダム

コア（細かめの土）、フィルター（粗めの石）、ロック（大きい岩）の土や岩を積みあげて造るダムです。コアは水をさえぎるためのものです。

資料提供：青蓮寺ダム管理所

野鳥のさえずりと子どもたちの歓声が響く

伊坂ダム

【四日市市伊坂町】

約100工場に日量約50トンの工業用水を供給※

冬季にはマガモ・カワウなどの水鳥が飛来する同ダムは、昭和41（1966）年に竣工されました。その目的は、四日市市を中心とする北伊勢臨海工業地帯へ工業用水を供給すること。型式はゾーン型アースダムで、一般的に見られるようなバルブがないため、一見すると溜池のようですが、実は地下をパイプが通り、各工場へと水が運ばれているのです。

同ダム建造後、ダム湖周辺は市民をはじめとした周辺地域の人々の憩いの場として親しまれています。早朝から夕刻まで、ウォーキングやジョギングに汗を流す人々がいる一方、特徴といえるのが、カラフルな自転車に乗り、喜々として走る子どもたちの姿が見られること。ログハウス風の「伊坂ダムサイクルパーク管理事務所」には、16インチの子ども用自転車から26インチの大人用

なだらかに傾斜するダムの堤高は34.5メートル、堤長は775メートル

春には、湖畔全体がサクラ色に染まる※

自転車に加えて、2人乗りのタンデム自転車、練習用自転車などが136台用意され、休日を中心に多くの家族連れで賑わいます。

「女の子は色や柄で、男の子は機能で選ぶ傾向がありますね」と教えてくれるのは、同管理事務所の安田 みゆきさん。職員の皆さんが日々整備点検を行っているため、どの自転車も新品同様の輝きを放っていました。

また「サイクル広場」では、38台の変わり種自転車や21台のモトクロスバイクなどもあります。特にパトカーやクラシックカーなどを模した変わり種自転車は、1人乗りから最大6人乗りまであり、家族や友人たちと一緒に遊べると好評。約300メートルのコース上を子どもたちの笑い声が響きます。

「例年だと、5月には『親子で作ろうこいのぼり』、10月には『八郷（やさと）フェスタ』などの各イベントを、地元の『八郷地区連合自治会』が主催し、地域の皆さんの協力のもと開催されていて、風物詩となっています」と安田さん。広場内の花壇に季節の花々を植える活動を行う、NPO法人「やさと伊坂・山村ダム公園化推進協議会」の話なども聞いていると、同ダムが地域の人々にとても大切にされていることが伝わりました。

こうして今日もまた、「伊坂ダム」湖畔には子どもたちの歓声が響き渡ることでしょう。

お問い合わせ

「伊坂ダムサイクルパーク管理事務所」
（金曜日定休）
TEL 059-364-1546

整然と並べられたカラフルな自転車

変わり種自転車で遊ぶ中学生

青空を元気に泳ぐこいのぼり※

「八郷フェスタ」※

※印の写真は取材先から提供していただきました

雲出川流域を守るダム湖畔を歩けば、ストレス解消
君ケ野ダム【津市美杉町】

JR名松線「伊勢竹原」駅から歩くこと約20分、見上げるほど高く巨大なコンクリートの壁が姿を現します。「君ケ野ダム」です。同ダムの歴史は、昭和28(1953)年や同34(1959)年の台風によって雲出川が氾濫し、甚大な被害が出たことによって始まりました。雲出川の支川である八手俣川にダムを造ることで、洪水から流域の人々を守ると同時に、工業用水や農業用水が枯渇した場合の補給もできるようになったのです。

ダムの管理を担う三重県津建設事務所 君ケ野ダム管理室では、気象状況やダムの水位のほか、下流の水量を常に把握しながら、状況に応じて放流を行っています。幸いにして、ダム頂部にあるゲートを使って緊急放流を行うような洪水は、昭和47(1972)年の竣工以来、一度もないとのことです。同室では、ダムの役割をさらに知ってもらうため、状況に応じてダム見学(要予約)を実施。地域の人々や小学生たちに、ダムの構造を間近に見られる貴重な体験を提供しています。また、来訪者に配布するダムカードが人気で、例年全国各地から平均して2000人が訪れると伺いました。

重力式コンクリートダムの堤高は73メートル※

治水・利水と2つの役割を担う同ダムの湖畔周囲は、春には約1300本のサクラが咲き競い、名所として知られます。また、平成20(2008)年に美杉町が「森林セラピー基地」に認定されると、湖畔道路がセラピーロードの一つとなり、新たな役割・魅力が加わりました。森林セラピーとは、医学的な証拠に裏付けされた森林浴のことで、ストレス解消・健康増進効果があるとされます。「レークサイド君ケ野」を拠点とした約10・7キロメートルのコースを歩けば、日々の疲れも吹き飛ぶことでしょう。

春の湖畔の様子※

お問い合わせ

三重県津建設事務所 君ケ野ダム管理室
TEL 059-262-3248
【森林セラピーに関するお問い合わせ】
津市美杉総合支所 地域振興課
TEL 059-272-8082

※印の写真は取材先から提供していただきました

4つの役割で暮らしを守る 国土交通省直轄ダム
蓮ダム【松阪市飯高町】

水面に映る橋や山も美しい「奥香肌湖」

高見山に発して、西から東へ松阪市を横切るように流れる櫛田川。「蓮ダム」のある蓮川は、この櫛田川に上流の高見山地で注ぎ込む支川です。

「蓮ダム」は、堤高78メートル、長さ280メートルという巨大な重力式コンクリートダム。直線のダムに堰き止められ、深い谷に湛えられた「奥香肌湖」は、ダムから上流へ約1キロ地点では蓮川とその支川青田川に分かれ、大きさは1.2平方キロメートルあります。周辺には管理所や、遠くの山々まで見渡せる展望台などの関連施設があります。

ダム全体を見渡せる展望台

ここは、県内で唯一、国土交通省が管理する多目的ダムで、防災、流水の正常な機能維持、水道用水、発電と4つの役割を果たして人々の生活を守っています。櫛田川から取水した水は、浄化後、松阪市や多気町以外にも、遠くは志摩市や鳥羽市の離島にまで供給されているそうです。

国土交通省 中部地方整備局 蓮ダム管理所 専門官の瀬古 信広さんのご案内で、ダムにあるエレベーターで内部へ。秘密基地のような監査廊や観測室を見学して、一番下で外へ出ると、そこは防災時にダムから下流へ放流される、主放流設備のすぐそば。間近に見上げるダムの大きさは圧倒的で、遠くからは小さく見えた放流口も、近寄れば巨大です。「放流時は迫力がありますよ」と瀬古さん。事前に申し込めば、ダム内部や管理所などの見学も可能とのことです。

下流にある副ダムや発電所の付近などは、サクラや紅葉の美しい樹木が植えられて四季を通じて楽しめるよう整備されています。ダム湖をぐるりと回る道は、トンネルあり、橋ありと変化に富んだドライブルート。ダム湖の畔にある「津本公園」にもサクラがいっぱいです。

ダムの下流側

春の「津本公園」※

お問い合わせ

国土交通省 中部地方整備局 蓮ダム管理所
TEL 0598-45-0371

※印の写真は取材先から提供していただきました

地域の発展とともに歴史を重ねた半世紀
青蓮寺ダム
【名張市】

アーチ式コンクリートダム。「京セラドーム大阪」23個分の水が貯まる※

名張市街地からわずか5分ほどの距離にある「青蓮寺ダム」は、奇勝香落渓への玄関口でもあります。ダム湖上流へ進み、トンネルを抜けると、青蓮寺川に沿って斧で断ち割ったような柱状節理の岩壁が8キロ余り続き、春には岩肌にヤマブキやツツジ、秋は燃えたつような紅葉に彩られます。

「青蓮寺ダム」は伊勢湾台風とその後の洪水が契機となって計画され、昭和45（1970）年に独立行政法人水資源機構が管理を開始しました。名張市を含む下流域の洪水被害を軽減することに貢献し、一年を通じて水道用水や農業用水に必要な水を補給することで、ダム下流域の生活の基盤を支えています。名張市や遠く大阪市や尼崎市など阪神地区の水道水源にもなっています。

また湖面や湖畔が整備され、水源地域を中心にした名張市の活性化に役立てようと、観光資源としての発信も盛んです。周辺にはテニスコートや親水公園、また果樹園が広がり、「青蓮寺湖観光村」は、家族連れに人気のスポット。1月から5月にイチゴ狩り、7月から10月にはブドウ狩りが楽しめます。

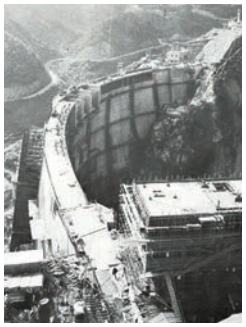
展望台からは美しい弧を描くアーチ式のダムの全貌が眼下に開け、82メートルの高さを一望できます。ダム湖に架かる2つの大きな橋は青蓮寺湖のシンボルです。青い方が青蓮寺橋、鮮やかな赤色は弁天橋。それぞれの橋が湖畔に映り込む造形美を狙って、撮影ポイントを探すカメラマンの姿も。「ダム湖の周囲は約5キロ。散歩する人もよく見かけますが、キロポストが設置されているのでランナーにも喜ばれています。香落渓への道はサイクリングに人気です。『名張青蓮寺湖駅伝競走大会』は次で35回目となり、早春の風物詩として定着しています」と青蓮寺ダム管理所の所長、近藤 晶信さん。駅伝大会や自然体験などでにぎわいを創出し、半世紀の歴史の中で新しい価値が生まれています。

「50周年のときにはそれを記念したダムカードをつくりましたが、ダム愛好家の人たちから注目され、全国からお越しいただきました。また木津川水系の5基のダム周辺では、ダムカレーが食べられます」と同管理所所長代理の鍵田 和彦さん。それぞれに特徴あるカレーを提供し、「青蓮寺ダム」湖畔で営業する「yuno cafe」のカレーも、アイデア満載の一品です。青い皿の上にアーチ型の白いご飯、貯水池を表すカレーはスパイシーで、ダイコンの桜漬けと野菜のマリネがアクセント。これで青蓮寺湖を彩るサクラと紅葉を表現しています。

ダムの役割や水の大切さを知ることを目的に、例年夏休みシーズンに施設見学会が実施されています。普段は立ち入ることのできない場所が公開され、構造や仕組みを聞けば、ダムを身近に感じられるはずです。

山々に囲まれた青い湖面は、季節毎に変化をみせ、その風景が人々を魅了しています。

お問い合わせ
青蓮寺ダム管理所
TEL 0595-63-1289



建設中の様子※

展望台からダムの高さを一望※

最もダム湖に近づける親水公園

「青蓮寺湖観光村」のゲート※

「名張青蓮寺湖駅伝競走大会」※

「yuno cafe」のダムカレー※

夏休み恒例の施設見学会※

※印の写真は取材先から提供していただきました

ボート関係者や鉄道ファンに知られる赤いゲートのダム

三瀬谷ダム 奥伊勢湖

【多気郡大台町】

重力式コンクリートダム※

日本有数の清流・宮川の中流にある「三瀬谷ダム」。そのダム湖は「奥伊勢湖」の名で親しまれ、県下唯一の公認漕艇場としてさまざまな大会が催されています。10月に開催予定の「第76回国民体育大会三重とこわか国体」では正式競技のボート会場として準備が進められていますが、ダムができたのは昭和42(1967)年。それに伴って整備された「奥伊勢湖」が昭和48(1973)年の「全国高校総体」、その2年後の「第30回三重国体」にボートレース場として利用され、漕艇場としての知名度が上がりました。

現在はボートのほか、カヌーやSUP(サップ)が人気となって、多くの人が訪れています。ボートを保管し、貸し出しも行う「大台町B&G海洋センター」には、体育館やトレーニングルームがあり、広い敷地に芝生広場も整備され、町民も気軽に利用できる場所。建物を管理する大台町教育委員会事務局の山下晃さんに利用状況を伺いました。「大台町の昴学園高校をはじめ、県内4つの高校にボート部があり、放課後や土日、夏休みなど、ここに集まって練習に励んでいます。貸し出しボートがあるので、遠方からでもボート部OBの人たちが来てくれています」と、大台町は「ボートのまち」として認知され、自然豊かな環境も魅力となっているようです。

前回の「三重国体」のアルバムを見せていただきました。開会式や湖で繰り広げられる熱戦、沿岸の観覧者、そして当時の皇太子殿下・妃殿下(現上皇陛下・上皇后陛下)が来町され、JR紀勢本線「三瀬谷」駅から歓迎する様子など、写真から盛況ぶりがうかがえます。「町には宿泊施設があまりなかったので、選手の宿泊先として一般家庭で受け入れを行い、そういったところは家族ぐるみで選手の声援に

昭和50(1975)年の「三重国体」の様子※

駆けつけ、いまだに交流があるという話も聞きますね」と山下さん。地域全体で競技を盛り上げました。

国体の翌年から毎年続く夏の定番イベントがあります。8月末の「大台町水上カーニバル」です。普段ボートに馴染みのない町民も楽しめる競技で、県内外から多くのクルーが集まります。

「三瀬谷ダム」の隣には中部電力の建物があります。平成27(2015)年に、ダムを開発した三重県企業庁から譲り受け、「三重水力センター」として新しく生まれ変わり、運転保守管理を担っています。同センターの萬濃秀明さんにダムの特徴を教えていただきました。「ダムの下に高さ3メートルほどのブロックが並んでいますが、これは水叩き部に当たる水の勢いを抑える減勢のための設備。この構造はほかであまり見ることはありません。また発電のために落差や水量に応じた水車を利用するのですが、ここでは『カプラン水車』が設置され、高さはないけれども水量の多い宮川ならではの特徴といえます。これも数が少ない珍しいものですね」。それぞれの場所で特徴を生かした工夫がなされ、効率的な発電が行われています。

ダムの堰堤上は近畿自然歩道の一部。道の駅を起点とした「北畠史跡めぐり」のウォーキングコースにも盛り込まれ、大台町の見所の一つとなりました。

ダム正面にJR紀勢本線の鉄橋が架かり、鉄道ファンも訪れる「三瀬谷ダム」。国道42号の船木橋から眺める4つの赤いローラーゲートが印象的です。

お問い合わせ

「大台町B&G海洋センター」
(大台町教育委員会)
TEL 0598-82-1363

中部電力 再生可能エネルギーカンパニー
三重水力センター
TEL 0598-82-1180

国体競技では1000メートルを競う※

水上散歩を楽しむSUPが人気※

「大台町B&G海洋センター」の艇庫

「大台町水上カーニバル」の様子※

ダム下流の鉄橋も見所

※印の写真は取材先から提供していただきました

30メートルの高さを実感する地域密着型のダム

滝川ダム【伊賀市高山】

重力式コンクリートダム

伊賀コリドールロードで山間部を走ると、「滝川ダム」の道路案内板が見えてきます。三重県初の生活貯水池建設事業に採択され、平成12(2000)年に完成した比較的新しいダムで、駐車場から周回する道が整備され、人里離れた知る人ぞ知る散策ゾーンになっています。通行する車も少なく、騒音のない自然の中、気軽にウォーキングが楽しめます。まったダムを下から望む展望エリアは、密かな花見スポット。サクラとツツジの木に囲まれた東屋では、ピクニックもいいでしょう。

ダム下流に高山、比自岐(ひじき)という集落があります。伊賀米を生産するのどかな農村地帯ですが、ダムができる前は井戸水や谷水が頼り。渇水時にはほかからもらい水をするなど、水不足の悩みもありました。ダム建設の大きなきっかけとなったのは、昭和57(1982)年の台風で被害を受けたこと。川と集落が近いため河川改修が難しく、国のダム建設事業に手を上げました。「局地的な地区の治水、利水を対策につくられた地域密着型のダムなんです」と、ダムを管理する三重県伊賀建設事務所の小久保 和真さん。比自岐川沿川地域の水害を防ぎ、農地用の取水の安定化が図られています。

「放流は自然調節方式で、管を開けたりするのではなく、水が上がってきたら自然と流れていく仕組みです。普段は無人ですが、毎日パトロールに出向き、週に一度は内部の通路を点検しています。小さなダムですのでエレベーターがありません。建物の移動は徒歩です」と小久保さん。小さいといえども堤高は約30メートルで、展望エリアでは堤体直下に進むことができ、その高さを間近に体感できます。構造物に直接触れることができる、小規模ならではの魅力です。

堤頂(ていちょう)からダム湖を眺める

建設完成直後の全景※

お問い合わせ
三重県伊賀建設事務所　総務・管理室
TEL 0595-24-8208

※印の写真は取材先から提供していただきました

サクラの里の美しい渓谷が秘める筏師(いかだし)の活躍

七色(なないろ)ダム【熊野市神川町】

重力式コンクリートアーチダム

北山川を堰き止めて造られた「七色ダム」は、三重と和歌山の県境にあります。上流から左岸が三重県側の熊野市神川町で、右岸は和歌山県北山村。ダム堤体の上を通る国道169号で、お互いの集落を行き来しています。

深い谷を蛇行する北山川では、かつて上流の山中で伐り出された材木は筏にして運搬されていました。激流での筏流しは命懸けの仕事。時には命を落とす筏師もいて、その供養のための磨崖仏(まがいぶつ)が、ダム下の河原に残されています。

ダムを訪れるなら断然春です。「川沿いに集落までサクラが植わり、長年、郷土をPRしようと住民が中心となって桜まつりも開催していました。今も夜間のライトアップは続けられています」と、熊野市観光交流スポーツ課の大西翼さん。神上(こうのうえ)川を1500本のソメイヨシノが彩ります。また神川町は日本で唯一の那智黒石の産地として知られ、碁石や硯が加工販売され、日帰り入浴の「神川温泉」(火・木・土曜営業)もあり、山間の里をぶらりと散策し、のんびり過ごすのもいいでしょう。

神上川沿いを彩るサクラ※

「碁石の里 神川温泉」

神川町から北山川下流に向かう県道34号に、巨岩が林立し、清冽な水をたたえる「七色峡」があります。季節によって川の流れが7色に変化するといわれる神秘的な場所で、春にはイワツツジやイワチドリが咲き乱れ、峡谷を色鮮やかに彩ります。

「七色ダム」は発電を目的として昭和40(1965)年に竣工し、七色発電所が運転を開始しました。発電のほか、上流の池原発電所における揚水発電の下池としての役割も担っています。重力式アーチダムのシンメトリーな構造は、ダム湖側からの眺め、堤頂(ていちょう)の国道169号から見る下流、県道34号より見るダム正面と、どれも見応えがあります。周囲と一体化したまとまりのある景観が、ダムの魅力を高めています。

春には新緑を映す「七色峡」※

お問い合わせ
熊野市観光協会
TEL 0597-89-0100

※印の写真は取材先から提供していただきました

四日市市楠歴史民俗資料館保存運営委員会

平成17（2005）年、楠町本郷に「四日市市楠歴史民俗資料館」が開館しました。江戸時代に旧本郷村の庄屋を務めた岡田家の土地と屋敷を保存・活用したもので、四日市市指定文化財の主屋・立会所・蔵に加えて、展示棟が併設されています。「四日市市楠歴史民俗資料館保存運営委員会」は、同家に残る資料の整理・保存のほか、来館者に館内を案内する「語り部」などを行いながら、楠町の歴史・文化を守り、後世へ受け継ぐ活動を続けています。

辻 忠男委員長

お問い合わせ

「四日市市楠歴史民俗資料館」
（月曜日休館）
四日市市楠町本郷1068番地
TEL 059-398-3636

今回は、「四日市市楠歴史民俗資料館」にお邪魔して、「四日市市楠歴史民俗資料館保存運営委員会」委員長の辻忠男さんに案内していただきました。辻さんの話からは、楠町への並々ならぬ想いが伝わりました。

――展示棟内にある「常設展示室」では、町の歴史が映像やパネルなどで展示されていて、とてもわかりやすいですね。室内には、岡田家の古文書も展示されていますが、同家と楠町との関わりについて教えてください。

辻…岡田家の祖先は、南北朝時代に築かれた楠城（当時は楠山城）の初代城主である、諏訪十郎貞信（正信）の家臣だったといわれます。その後、楠正成の末裔と伝わる楠正威が4代目城主となると、楠氏が代々の城主になりましたが、同家は引き続き、城主に仕えていました。ところが、天正12（1584）年に城主が滅びると、農民となったのです。古文書には「庄屋武兵衛 文政12（1829）年」という記述があり、このころから庄屋を務めていたと考えられます。大正時代には旧楠村の村長、昭和には旧楠町の町長を務めるなど、長年にわたって地域の行政に携わってきたのです。

――岡田家は、楠町の歴史に欠かせない存在なのですね。続いて、居室空間である主屋へと移動してきましたが、何か特徴はありますか？

辻…主屋は、奥にある蔵とともに江戸時代中ごろに建てられましたが、農家には珍しく格子があります。また、玄関入口のすぐ左側の「電話室」は、本郷地区で最初に設置されたものです。電話機自体は当時のものではありませんが、子どもたちには大変好評です。鴨居の「槍架け」なども珍しいと思いますが、中でも特徴的なのが、隣接する立会所です。立会所とは、会議をする場所のことで、定期的に会合や食事などを行っていたと思われます。

電話機

――主屋から立会所へと入った途端に雰囲気が変わりました。欄間などの意匠がすっきりと洗練されている上に、水琴窟などが据えられた南庭を眺めることもでき、まるで料亭のような風情ですね。ここは、楠町の人々にとって自慢の場所なのですね。

辻…私たちは、岡田家から屋敷を寄付していただいた平成14（2002）年から、この輝かしい歴史と文化を残すために活動してきました。開館後は活動拠点となり、これまでに、竹灯り教室・しめ縄作り・餅つき体験などの体験教室や、ホタルの郷コンサート・雛まつりコンサートなどのイベントを定期的に行ってきたのです。残念ながら昨年は、屋内でのイベントはできませんでしたが、しめ縄作りなどの体験教室を、屋外で行うなどの工夫をして乗り越えてきました。これからも、会員22名で協力しながら、町の歴史と文化を守っていきたいと思っています。

――ありがとうございました。岡田家の古文書に加えて、埋蔵文化財や農耕器具なども数多く展示された同館には、楠町の魅力が詰まっていました。

インタビュー…中村 真由美

主屋外観

主屋内の「ざしき」

立会所内の様子

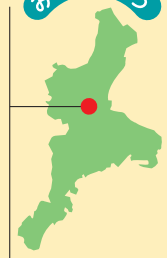
南庭

「語り部」活動※

米蔵跡地に建てられた展示棟外観

展示棟内の展示風景

※印の写真は取材先から提供していただきました



ゆったり長閑な風景と重層する歴史をめぐる

津市 白山町川口周辺

津市白山町川口は、雲出川の南側に開けた田園地帯。広々と続く田畑を横切るように、JR名松線の線路が通っています。川の向こうには布引山地の山並が美しく連なり、広がる平地と織りなす風景は爽快です。

この付近は、古く縄文時代から人が住み、古代、中世、近代と、時代ごとに多彩な歴史物語が紡がれ、それを伝える品々が数多く残されています。

今回は、10年にわたって、ふるさと白山町の文化財や歴史について学び伝える活動を続けてきた「白山道しるべの会」の皆さんのご案内で、JR「関ノ宮」駅を起点とし、川口の北西部をぐるりと回って歴史を語るポイントをたどるルートです。暮らしを守るため藩に立ち向かった農民や、鬼を家来に従えていたという豪族、反乱を逃れてきた天皇など、多彩な古の物語に思いを馳せつつ、ゆたかな田園風景を歩きます。

取材・文…堀口 裕世

田園風景が美しい川口北西部

今回の案内人、「白山道しるべの会」(会長・今井 直毅さん)の皆さん。(写真左から)中川 利生さん、森川 正美さん、庄山 昭子さん、中谷 邦治さん、楠見 茂晴さん

「白山道しるべの会」
https://hakusan0guide0blog.localinfo.jp/

■ 行程図　所要時間／約3時間30分　※所要時間は、おおよその目安です。

START
JR「関ノ宮」駅 →約200m→ 「津市白山公民館(白山郷土資料館)」 →約900m→ 東光寺 →約800m→ 善性寺 →約600m→ 宝蔵寺 →約1km→ 「瀬古集会所(廃高田寺)」 →約1.3km→ 医王寺・「河口頓宮」跡 →約400m→

縄文時代から続く歴史

JR名松線を「関ノ宮」駅で降り、まずは線路沿いの道を「津市白山公民館」へ。この2階に「白山郷土資料館」があり、縄文土器から近代の民具まで、多くの展示品が並びます。「いろいろな時代のものが揃っていますよ」と庄山さん。

白山町の長い歴史を学び、線路から少し離れて田畑の中へ進むと、道は田を分けて遥かにまっすぐ続いています。田の中にぽつんと立つ東光寺へ。「ここは檀家寺ではなく会所寺で、今も地元で大切にお守りしています」と森川さん。開基等は不明ですが由緒は古く、「白山郷土資料館」に展示されている、慶長4(1599)年の銘がある鰐口(わにぐち)もここにあったもの。元禄年間(1688~1704)に建てられたお堂には、室町以前の作という薬師如来がお祀りされています。〝野田のお薬師さん〟と信仰を集めるご本尊は秘仏とされていて、ご開帳は17年に一度のみ。前回は平成29(2017)年でした。

「郷土資料館」

医王山 東光寺

東光寺の鰐口(郷土資料館蔵)

林光山 善性寺の山門※

権力に抗(あらが)った先人たち

雲出川の方向へ、ひときわ大きな屋根を目当てに善性寺まで歩きます。ここには、寛政8(1796)年に起きた一揆の首謀者として処刑された庄屋の森 宗左衛門らのお墓や供養塔があります。津藩が行った改革の見直しを求め、農民が集結して約3万人が城下に押し寄せた津藩最大の一揆でした。中谷さんは「農民の要求は通りましたが、中心

森 宗左衛門らの供養塔と墓碑

人物たちは処罰を受けました。村では、義民・世直し明神と彼らを密かに讃えたのです」と話されます。

再び田園風景の中に戻り、**宝蔵寺**へ。ご本尊は観音菩薩立像で、薬師如来像もお祀りされており、初午祭などで賑わうお寺ですが、ここの境内には、藤原千方の胴塚があります。千方は平安時代の豪族とされていますが、実在かどうかは不明で、『太平記』では「日本朝敵」の一人とされます。金鬼（堅い体を持つ）・風鬼（強風を呼ぶことができる）・水鬼（洪水を起こせる）・穏形鬼（身を隠して敵を襲うことができる）という〝神変不思議の技〟を持つ四鬼を家来とし、豪勇をもって伊勢・伊賀の山地に君臨していましたが、驕りから朝廷に正二位を希望し、入れられず反旗を翻したといいます。

朝敵征伐に名乗りを上げた紀友雄の和歌により四鬼は逃げ去り、千方は討たれて、ここに胴体が残されたというのです。反逆者とされる千方ですが、中川さんによると「地元では〝警護などで朝廷に貢献していたのに〟と、同情的な見方も残っています」とのこと。四鬼を使い、朝廷に刃向かうトリックスター的な要素も魅力となり、伝説は白山町や伊賀市など広く分布し、浄瑠璃などにもなっています。

再発見の観音様

名松線の踏切を越えて「**瀬古集会所**」へ。ここは廃寺となった高田寺の跡地で、中には仏間が設けられ、薬師如来座像と十一面観音立像が安置されています。この観音像は、今は国指定重要文化財ですが、「平成元（1989）年の調査で平安時代初期の作と判定されるまで、地元でもその価値は知られていなかったんです」と楠見さん。右膝を少し曲げて踏み出すお姿も、『十一面観世音神呪経』に即しての珍しい形とのこと。境内跡からは、鎌倉時代以前の水晶製の仏舎利塔なども発見されています。

ここから川口小学校の前を通り、県道15号に添って医王寺へと向かいます。

重層する歴史の物語

県道を南に逸れると、風景は大きく趣を変え、木々に囲まれた小高い丘に出ます。この上にある**医王寺**は曹洞宗の古刹ですが、この地は、『続日本紀』にある「**河口頓宮**」跡といわれます。天平12（740）年に、聖武天皇が藤原広嗣の乱を避けて都から伊勢国に向かい、10日間ここに滞在されたと記されています。当時この付近に関所があり、この頓宮を「**関宮**」とも呼んだとのことで、丘に登る細道には「聖武天皇関宮宮阯」の石碑や、天皇の行幸に同行した大伴家持の歌碑などもあります。

また、『延喜式』などによると、この川口の地は、かつて斎宮の頓宮が設営されたということで、医王寺はその推定地の一つでもあります。川口を通って伊賀に抜けるルートは、天皇崩御の際、斎宮が都へ帰る道であったとされ、奈良朝までは往路でもあったそうで、朝廷と深い縁のあった土地なのです。

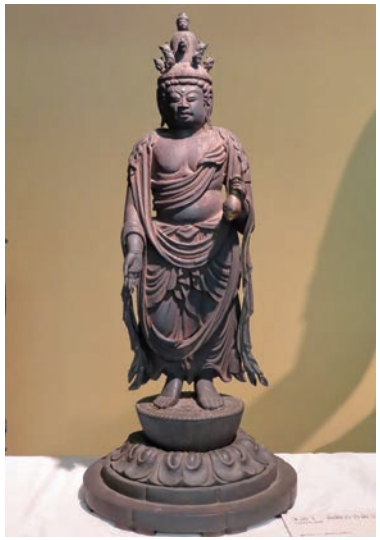
そしてまた「ここは戦国時代、織田信長に滅ぼされた北畠家の山城でもありました」と中川さん。「川口城跡」とも呼ばれ、土塁などが残っています。

重なり響き合う歴史物語に思いを巡らせながら県道に戻れば、JR「関ノ宮」駅はすぐ目の前です。JR名松線は本数が少ないので、時間配分にはご注意ください。

問 津市白山総合支所　地域振興課
TEL 059-262-7017

宝蔵寺※

藤原 千方の胴塚


廃高田寺の十一面観音立像※

医王寺

「聖武天皇関宮宮阯」の碑

大伴 家持の歌碑

※印の写真は取材先から提供していただきました

2021年4月発行〈偶数月15日発行予定〉企画・編集／RON　印刷／株式会社オリエンタル　発行／百五銀行　経営企画部広報ESG課
津市丸之内三―二二

三重のシンボル

津市

三重県内の市町などが、それぞれの特徴を象徴する存在として選定している木・花を紹介します。

市の木
ケヤキ

市の花
ツツジ

■ お問い合わせ ■
津市役所　政策財務部　広報課　TEL 059-229-3361

*市・町名の50音順に紹介しています。
*シンボルを選定していない、もしくは鳥や魚などを選定している市町も一部あります。

表紙写真 「蓮ダム」（松阪市飯高町）

百五銀行のホームページで、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧いただけます。
https://www.hyakugo.co.jp/mie/

禁無断転載

百五銀行
FRONTIER BANKING

FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C007758